

真夏の子どもフェスティバル in だがしや楽校@善行

にちじ：2011 年 8 月 27 日（土）14:00～17:00

ばしょ：善行公民館（神奈川県藤沢市善行 1 丁目 2-3）

主催：善行地区青少年育成協力会、だがしや楽校@善行実行委員会

《はじめに》

第 3 回“だがしや楽校@善行”を楽しみにしていた人が多かったことをあらためて知りました。それは、「山形をはじめ全国的に・・・」言っても過言ではありませんでした。みんな、それぞれの思いで、善行（ぜんぎょう：神奈川県藤沢市）に集うことを楽しみにしていました。

第 3 回“だがしや楽校@善行”は、2011 年 3 月 26 日に開くことで、準備を進めてきました。

第 1 回“だがしや楽校@善行”では、善行公民館が中心になって開きましたが、第 2 回（2010 年 3 月 28 日）からは“だがしや楽校@善行実行委員会”が主催して開くことになりました。それが第 3 回になりますと、地域の人たち自ら“だがしや楽校@善行”を開きたいという意志を示されます。この過程を見ていきますと、善行では着実に“だがしや楽校”が地域の中に浸透していることはわかります。

もちろん、この過程に於いて忘れていけないのは、磯崎お姉さまです。（最近の私〈山口〉は、磯崎お姉さまに適当に形容されますので、私も「磯崎お姉さま」と呼ぶことにします）

磯崎さん（善行公民館）が、何の予告もなく山形市にやって来たのは、2008 年 6 月 22 日。私が代表を務めていた“だがしや楽校だがしや倶楽部ラジオ部”主催の“平成 20 年度「山形学」地域連携講座 だがしや楽校的山形の文化発見”に参加するためです。ここで“だがしや楽校”に感染した磯崎さんが中心になって 2009 年 3 月 29 日に開いたのが、第 1 回“だがしや楽校@善行”です。

磯崎さんは、第 2 回に向けて、地域の人たちが主体になるようにと“だがしや楽校@善行実行委員会”をつくりまします。

磯崎お姉さまのパワーがどのように働いたのかまでは、私〈山口〉もわかりませんが、私もパネリストとして出演した“全国だがしやシンポジウム@善行”（前日の 2010 年 3 月 27 日開催）での学び、そして、第 2 回“だがしや楽校@善行”がとても楽しかったことで、善行地域の人たちの心を動かしたのでしょうか。

こうして、第3回“だがしや楽校@善行”に向けて、着実に準備が進められました。磯崎さんからは全国に向けて、おみせを出すことも含めて、開催案内が発信されました。山形の“だがしや楽校”仲間にも、藤沢市から公式に“参加”依頼があり、準備を進めてきました。

2011年3月11日午後2時46分18秒、“平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震”という巨大地震が発生し、“東日本大震災”と称される歴史的未曾有の大災害が引き起こされます。

国家を揺るがすほどの大災害と重大なる原発事故の発生に、さすがの磯崎お姉さまも勝てず、第3回“だがしや楽校@善行”は延期せざるを得ませんでした。（この判断については、当然のことながら、やむを得ないと思います。ただし、この当時の日本全体の自粛ムードに関しては、少々異を唱えた私〈山口〉でした）

それから5ヶ月、満を持して開いたのが“真夏の子どもフェスティバル in（第3回）だがしや楽校@善行”です。

今回は毎年この時期に開いている“真夏の子どもフェスティバル”と“だがしや楽校@善行”を合体した形で開きました。そこで、主催は“善行地区青少年育成協力会”と“だがしや楽校@善行実行委員会”となったわけです。



2011年8月27日（土曜日）神奈川県藤沢市の天気：曇り

【真夏の子どもフェスティバル in だがしや楽校@善行】

それでは“真夏の子どもフェスティバル in（第3回）だがしや楽校@善行”の模様を、ゆるりご紹介してまいりましょう。（アレ、このフレーズ、どこかで見たような・・・）

何はともあれ、真っ先にご紹介しなければならないのは、だがしやのおばあです。扮しているのは“だがしや楽校@善行実行委員会”委員長の志村さん。おばあは子どもたちにも人気で、握手する光景も見られました。



ただ、今回は駄菓子屋の娘さんがおりません。次回のお楽しみにしましょう。

《開会》

午後2時前、開会行事が行われました。

開会行事では、主催者を代表して、善行地区青少年育成協力会・会長の定永紀子さん（写真）から「今年は“だがしや楽校@善行”と“真夏の子どもフェスティバル”を合体し、皆さんに2倍楽しんでいただこうという思いで企画しました。目標は『世代を越えて、広げよう、広がろう、みんなの輪』とし、善行中学校と藤沢清流高校の生徒さんにも参加していただき、子どもからおじいちゃん・おばあちゃんまで、みんなで楽しくやりたいと思います。よろしくお願いします」と挨拶がありました。

定永さんから紹介がありました中学・高校の生徒さんは、緑のTシャツを着ています。このあと随所に登場しますので、注目して写真をご覧ください。

そう言えば、磯崎お姉さま（写真）が着ている朱色のシャツの背中には大きく“だがしや楽校”の文字が入っています。“だがしや楽校@善行”スタッフのユニホームです。



▼オープニングパフォーマンス・・・ハッピーキッズいしやま

午後1時55分から、善行公民館・善行市民センター正門前の道路で繰り広げられました。



引き続き、屋外の“もぎてんエリア”を見てまいりましょう。



左の写真の右側の建物が善行公民館・善行市民センターです。右手前が“だがしや楽校@善行”エリアとなった公民館ホールです。一時薄暗い雲に覆われましたが、雨が降ることもなく、楽しい“だがしや楽校@善行”になりました。

▼受付



▼竹ぶえ



▼給水所



2つのおみせでお手伝いされているのは、大越小学校（ここから西北西へ約800メートル）のPTAのおかあさんたちです。私〈山口〉のインタビューに「楽しいです」と教えてくださいました。

▼手作りアクセサリ・・・善行ひばりの家



大越小学校の東側、善行坂1丁目にある“善行ひばりの家”は、施設を開所して26年。特定非営利活動法人（NPO法人）として認証されたのは2006年12月。障がい者への日常生活訓練と自立促進支援に関する事業等を行っています。現在の利用者は10人です。

並んでいるアクセサリのカラフルさに目を奪われました。障がいを持つ人たちが作られたとは思えないほどです。

▼ジュース



▼フランクフルト



ジュースはJAの人たちによるおみせですが、このマツタリ感が良い感じです。

▼当てくじゲーム



子どもたちに大人気の当てくじのおみせです。水飴やシャボン玉も売っていました。

ただ、水飴を買って行く子どもたちの姿をあまり見ることはできませんでした。善行など首都圏の子どもたちにとっての水飴って、どんな感じなのでしょう。山形県南陽市の“だがしや楽校”では、よく売れていたのですが・・・。

▼おもちゃハウス

ぷよぷよウォーターボール、のびーるゴムをはじめ、いろんなおもちゃがいっぱいのおみせです。おみせのおじさんと子どもたちとのやり取りも楽しそうです。当てくじもあります。

私などは、その昔の公園（上杉神社などがある米沢市・松が岬公園のことです）のお祭りを思い出してしまいました。



▼古本屋



おみせ番をしているのは、開会のところでご紹介しました高校生です。私〈山口〉のインタビューに「自分で手を挙げました」と答えてくださいました。

▼ヨーヨーすくい

ここ善行でも、米沢(山形)でも、子どもたちに大人気のヨーヨーすくい。後ろでは生徒さんたちが懸命になってヨーヨーを仕込んでいました。



▼かき氷



最初に売り切れたのはメロンだったかな。暑い時のかき氷は最高です。

▼ポップコーン



善行地区民生委員児童委員協議会の人たちによるポップコーンのおみせです。高齢者の見守りや相談対応などの活動をしています。

▼わたがし



子どもたちに人気の綿菓子。生徒さんもつくっていました。



続いて、公民館の2階で繰り広げられた“真夏の子どもフェスティバル”をご紹介します。中高生ボランティアが活躍しています。

遊びの内容は、善行地区青少年育成協力会の皆さんが中心になって考えました。ある方はインタビューに「本当は中高生には遊びの内容を考えるとところから活動してほしかったのですが、これからでしょう」と答えてくださいました。

私〈山口〉などは、活躍している中高生の姿を見た子どもたちが中高生になった時に、そうなれば良いと思います。だから、継続すること、日常の中での活動が大切になるのです。

▼まとあて



▼スーパーボールすくい



▼はかり・わなげゲーム

いろんな種類のゲーム（遊び）があります。遊ぶとスタンプラリーのようにカードにチェックしてもらいます。チェックで多くの『ビンゴ』をとってパフェ券をもらおう、というわけです。

ゲームは、わなげ・じかん・ジャンケン・めいろ・おんど・おえかき・おもさです。



↑わなげ・・・よく見ますと輪も手作りです。



↑ ジャンケン



↑ おえかき



↑ じかん・・・5秒または10秒を選んで、山勘でその時間が経ったら手を挙げて合図します。見ていますと、5秒だから当たるものではないようです。おもしろいゲームです。



↑ おもさ・・・100グラムを持った後で重さを当てます。子どもたちの表情が何とも言えません。



↑おんど・・・2つの水槽があって、片方の温度はわかります。それでは、もう片方の温度は？
手を入れて山勘で当てます。

じかん・おもさ・おんどは、「どこでも使える遊び」かと思います。見ているだけでもおもしろく、とても感心しました。

おんどでおみせ番をしていた中学生にインタビューしたところ、「みんなよく当てます。自分で手を挙げて参加することにしました。(どうして手を挙げたかは) 夏休みの思い出づくりで参加しました」というしっかりした答えが返ってきました。

▼さかなつり



▼ボーリング



ピンには色付きの液体を入れて、しっかり重しをつけています。右の写真の後、ボールは私（山口）の頭を直撃しました。

▼アソブンジャーのカフェらっち！

中高生の生徒さんが作っているのはアイスクリーム。大好評で早い時間帯の内に完売してしまいました。



▼人形劇



▼おはなしのへや



いよいよ“だがしや楽校@善行”エリアのご紹介です。

▼ぜんぎょうクイズスタンプラリー・・・だがしや楽校@善行実行委員会



3カ所のチェックポイントで出される善行に関するクイズに正解しますと、“おもしろ消しゴム”（右の写真）をゲットできます。

「善行の人口は？」といったクイズが出されます。ちなみに善行の人口は藤沢市全体のおおよそ10分の1の約4万人です。



▼かおりの石けん作り・・・グリーンドロップ

“だがしや楽校@善行”エリアで真っ先にご紹介おみせがここです。なぜなら、美しい女性スタッフの方が私を憶えていてくださったからです。アレレ！



グリーンドロップ (<http://www.green-drop2008.com/>) は、ハーブティーやエッセンシャルオイルなどを販売しているお店です。また、講座も行っています。自然と触れ合う機会が少なくなる中、香りから自然に触れてもらい、植物を大切にする心、自然を大切にする心を育み、ひいては環境を大事にする心を芽生えてもらおうという思いで活動しています。



“だがしや楽校@善行”は2回目の参加です。今回は好きな香りを選んで石けんを作ります。
また、東北支援として、青森ヒバのエッセンシャルオイルを使ってルームスプレーも作ります。
売上の一部は被災地支援に充てます。

▼ミサンガ・・・だがしや楽校@善行実行委員会

“だがしや楽校@善行”エリアになっているホールの中央で開かれているのが“ミサンガ”のおみせです。



善行小学校のPTAと元PTAのおかあさんたちもお店番をしていました。

おかあさんたちによりますと、善行小学校にも福島から避難されたお子さんが通っているとのこと。

インタビューに答えてくださったおかあさんの友人には、会津から善行に移り住まれた人がいるそうです。会津から人は、これまで“だがしや楽校”のことを知らず、「今回の“だがしや楽校@善行”は、絶対に見に行く」と言っていたそうです。そして、「このようにして“だがしや楽校”が広がれば良いですね」と語ってくださいました。



▼紙トンボ・・・善行あそび塾





『つくってあそぶ、親子であそぶ、善行あそび塾』は今回も“竹トンボ”ならぬ“紙トンボ”。

▼ぬりえ作品展示・・・藤沢芙蓉幼稚園の園児



▼パステル画・・・ネプライフ



美しい女性の方がおみせ番をしている“パステル画”。

インタビューしてみますと「藤沢市の広報番組に出演している縁で“だがしや楽校@善行”に参加しました」とのこと。納得！！

パステルは趣味で教えているそうです。

▼にがお絵



今回もK姉妹による“にがお絵”のおみせが出されました。にがお絵を描いているのは、妹さんです。

▼ハンドセラピー



Ymさんによる簡単な手相読みのおみせです。手相による占いというより、手相の状態から、その人が持っている特徴を引き出している感じがしました。最後まで人が途絶えることがなかったおみせです。

▼マスコット作り・・・福祉推進ボランティア



“福祉推進ボランティアメンバー”は10人ほどです。「活動を始めたのはいつですか？」と尋ねますと、皆さん声を揃えて「何十年も！」。社会福祉協議会の手伝いなどを行っています。



▼ベーゴマ・・・神奈川ベーゴマ倶楽部



好きなベーゴマを選んで、きれいに色を塗って、遊びます。



川上さんをはじめ杉並の“だがしや楽校”仲間たちも加わって、さらに盛り上がります。



中曽根さんの“子どもアミーゴ西東京のだがしや楽校”ではベーゴマが大人気ですので、中曽根さんとおみせを出した神奈川ベーゴマ協会の方との談義も盛り上がります。

中央の女性の方は「きょうは本拠地でがんばっています」という井出さんです。大切な“だがしや楽校”仲間のひとりです。“つづき楽校”にも出演しています。

2010年3月の第2回“だがしや楽校@善行”でもおみせを出した神奈川ベーゴマ倶楽部。中曽根さんとの談義でも「毎週のように何処かでイベントや大会があります」と語っていました。ちなみに9月3日には、ベーゴマのメッカ埼玉県川口市で大会があります。

▼おばあのだがしやさん・・・だがしや楽校@善行実行委員会



はじめにご紹介しました志村さん扮するだがしやのおばあがお店番するだがしやさんです。大繁盛です。

▼かつおぶし削り・・・マリー英会話楽校

静岡県焼津市の“だがしや楽校”仲間・嶋マリーさんのおみせは、かつおぶし削り体験のおみせです。



この日の“だがしや楽校@善行”が始まる前に挑戦しているのは、中高生スタッフの生徒さんと山形県子ども体験広場普及員の Doi さんです。そして、Doi さんと共に写っているのは、静岡市の日野さんと三本木さんです。



嶋マリーさんは、今年（2011 年）3 月開催予定だった第 3 回“だがしや楽校@善行”では、焼津の人たちを誘って参加することになっていたのですが、残念ながら延期されたことで、焼津の人たちが参加できなくなりました。そこで、応援してくださったのが日野さんと三本松さんです。私〈山口〉にとって、三本松さんとは 2009 年 12 月以来の再会です。



おみせは、このとおりの大人気で、行列ができるほどでした。また、新商品のピーナツ入りかつお節“バリ勝男くん”も見事に完売！



2 人の女の子さんが紙に「またやりたい」と書いてくれた時のマリーさんは「最高に幸せです」。

こうして楽しく過ごしている内、アッという間に“真夏の子どもフェスティバル in だがしや楽校@善行”は、おしまいの時刻（午後 5 時）になってしまいました。

終わりのミーティングでは、だがしや楽校@善行実行委員会・委員長の志村さんから「心配された天気にも恵まれました。また、遠くからも大勢の人が参加してくださいました。おかげさまで無事に終了することができました。ありがとうございました」と挨拶がありました。



終わりのミーティングの後は、この日の“真夏の子どもフェスティバル in だがしや楽校@善行”で大活躍してくださった中高生の生徒さんたちの記念写真撮影です。お疲れ様でした！

これで、“真夏の子どもフェスティバル in だがしや楽校@善行”のレポートは、おしまいです・・・ちょっと待った！

一通りご紹介したはずなのに、まだ誰かを紹介していないような気がします。さて、誰でしょう・・・そうです。会津若松市の小野さんです。でも小野さん、“だがしや楽校”ではおみせを出していませんでした。

実は小野さん、磯崎お姉さまのキツ〜イ！？指令により、夜の“わけっこ飲み会”に提供する会津名物“そばがき”を作るだけのために善行までやってこられたのです。

というわけで、やむなく“わけっこ飲み会”でもカメラを手にする事になってしまいました。



左の方が小野さんです。

なお、小野さんですが、9月17日には、会津若松市で、被災者応援イベント・ミニだがしや楽校を開きます。

《振り返り》

“真夏の子どもフェスティバル”と“だがしや楽校@善行”を合体したこともあり、たくさんのおみせが出されました。そして、写真でご紹介した通り、大勢の子どもたちと地域の人たちが集い、大にぎわいとなりました。

このため、3時間の中での私〈山口〉の取材では、一通りおみせをご紹介することはできましたが、写真だけの紹介になってしまったおみせもあります。ご勘弁願います。

ちなみに、前回の第2回（2010年3月）の時には、それぞれの出店者のインフォメーションを紹介する資料を作られていました。

ご紹介したように、大勢の人たちで大にぎわいとなりました。これは“だがしや楽校”が善行という地域で、さらに根付いていることの証であります。本当に凄いことです。

特に今回は、前回（第2回）以上に、地域の人たちの主体性を感じました。それは言い換えますと、“だがしや楽校@善行実行委員会”が機能し、地域の人たちの手によって開かれた“だがしや楽校”であることを、より強く感じたのでした。

“真夏の子どもフェスティバル”と合体したこともありますが、善行中学校と藤沢清流高校の生徒さんの活躍ぶりも、この日の“だがしや楽校@善行”を厚いものにしました。子どもからお年寄りまで、世代が途切れることもなく、正真正銘の世代を越えるコミュニケーションの場になりました。

生徒さんたちは、私のインタビューにもしっかり答えてくださいました。特に「夏休みの思い出づくりで参加しました」と答えられた中学生が印象に残りました。

『自分みせ』をキーワードとする“だがしや楽校”は自己表現を学ぶ場でもあります。その“だがしや楽校”と合体した今回の“真夏の子どもフェスティバル”では、生徒さんたちが自己表現できるおみせがあったら、なお良かったと感じました。

自主的に参加されたことだけでも素晴らしいのですが、これをきっかけに、生徒さんたちにもおみせを考えてもらう機会を設けていただきたいと思います。ただし、その際には、難しく考えてもらおうとはせず、どんなおみせでも良い、簡単なおみせでも良い、とにかく生徒さんが負担にならず楽しくおみせを出せるようにサポートすることです。

おみせで印象に残ったのは、はかりゲームでの、時間・重さ・温度を当てるおみせでした。これなら、どこでも簡単におみせとして出すことができます。善行地区青少年育成協力会の皆さんが考えられたそうです。感心しました。

ハンドセラピーのおみせは、子どもたちよりも、中高生や大人が喜んだおみせです。“だがしや楽校”での新たな提案、“だがしや楽校”の新たな広がりを感じました。

大半のおみせは大にぎわいでしたが、もう少し工夫すれば、もっとにぎわうと思われるおみせもありました。例えば、ジュースのおみせ。ゆったり感は良かったですが、そのゆったり感を来場者の皆さんと共有できれば、もっと良かったと感じました。

はかりゲームの部屋には、感想を書くことができる大きな紙が貼られていました。私が拝見した時には「たのしかった」「おもしろかった」という言葉だけでしたが、もう少し工夫すれば、も

っといろんな感想が書かれると思いますし、この紙を通して、コミュニケーションも可能になります。アンケートで感想を求める方法も良いですが、こういう形で、感想を引き出す方法もあります。

嶋マリーさんが「最高に幸せです」と私に漏らしたシーンも、感想の引き出し方として注目します。カツオの絵が描かれた紙は、ぬりえにもなりますし、感想も書くことができます。

その嶋マリーさんのおみせも大人気でした。私も購入した“バリ勝男クン”。美味しくいただいております。かつおぶし削りをおみせにする・・・これもアイディアです。地域が見えるおみせです。日野さん・三本松さんとの再開も嬉しかったです。特に三本松さんは、異動になっても“だがしや楽校”に参加してくださいました。

グリーンドロップの“かおりの石けん作り”は、用意した60個分が2時間ほどで売り切れ御免となってしまうほどの人気ぶりでした。グリーンドロップは単なる香りのお店ではありません。香りを通して自然を考える活動を行っています。

“紙トンボ”や“マスコット作り”での、スタッフの人たちの元気と笑顔に、私も励まされた感じです。ベーゴマは相変わらず、子どもたちの人気の的でした。山形の“だがしや楽校”でも人気のパステル画は、善行でも人気でした。

ミサンガは女の子さんを中心に大勢の子どもたちが遊んでいました。ただ、ビーズ作りのおみせを画像でご紹介できなかったのが残念でした。しばらく様子を見ていたのですが、集うお子さんがいませんでした。これも、ひとつの学びです。

ここは、戸籍・住民票交付など行政サービスを行う善行市民センターであり、善行公民館でもあります。社会教育施設である公民館は、その目的から使用できる範囲は、社会教育法の趣旨に基づき定められています。

それを考えますと、善行公民館を会場に開く“だがしや楽校@善行”は革新的と言えます。

『自分みせ』がキーワードである“だがしや楽校”は社会教育活動でもあります。なんでもありの“だがしや楽校”は社会教育活動だけに留まりません。駄菓子屋とは、儲けが出る・出ないは別にしても、商売であり、経済活動です。すなわち“だがしや楽校”も、商売や経済活動を学ぶ場という一面を持っています。

だから、善行市民センターといっしょに施設とは言え、善行公民館で開かれる“だがしや楽校@善行”は意味深いのです。

地域の人たちと公民館を結ぶのにも貢献しているのが“だがしや楽校@善行”です。元々は、磯崎のお姉さまが「公民館とは何か」と自問したことが“だがしや楽校@善行”のきっかけです。山形県もそうですが、全国的に見て、公民館のあり方が問われている今、“だがしや楽校@善行”は、ひとつの答えを引き出しているように感じます。

相変わらず、跳びはね回っている磯崎のお姉さま。私に同行した山形県子ども体験広場普及員のDoiさんを紹介しようとして、声をかけたのに、サッとしてしまった磯崎のお姉さま。きっと「山口の話は長いだろう」という固定概念から抜けないからなのでしょうけど・・・

でも、磯崎のお姉さまの行動力は、いくら全国を巡っている私でも、まったく足元にも及びません。「凄い」としか言いようありません。

終わったばかりの“真夏の子どもフェスティバル in（第3回）だがしや楽校@善行”なのに、第4回“だがしや楽校@善行”の開催が、来年（2012年）1月28日に決まっていたのであります。

「ゆるり」どころか、前へ前へと進んでいるのであります。

これも、“だがしや楽校@善行実行委員会”をはじめとする善行地域の方々の“だがしや楽校”への本気度によるものです。

ますます楽しみな“だがしや楽校@善行”であります。

企画・制作・編集・文責

山口充夫

だがしや楽校コーディネーター